

紙を抄造することなく、印刷で手軽に透かし模様を。

透かし印刷の手引き

オフセット印刷機で可能な“透かし印刷”を行うための手引きです。ご検討中の方はご一読ください。

01. 透かし印刷とは

02. 透かし印刷事例 ①

03. 透かし印刷事例 ②

04. 適正用紙のご案内

05. データの作成方法

06. 透かし印刷の注意点

07. その他注意点 / お問い合わせ

SU KA SHI
Printing



Manual

WATER MARK...?

01. 透かし印刷とは

透かし印刷とは、透かし模様の印刷物をオフセット印刷機で制作可能にした印刷手法です。
常温で固化しない液状の樹脂（透かしインキ）を紙に浸透させ、光の透過率を変えることで紙を透かせて見せることが出来ます。

抄造した透かしの和紙はとても素敵ですが、透かしの用紙を一から抄くので時間もお金もかかります。弊社の透かし印刷は**通常のオフセット印刷機で制作が可能です**ですので、手軽に透かしを楽しむことが出来ます。



【採用事例】

某文具メーカー様（便箋・封筒・一筆箋）
某文具メーカー様（包装紙） / 某出版社様（ポチ袋）
某資材メーカー様（熨斗紙） / 某出版社様（ポスター）
某印刷会社様（レターヘッド・ノート） 他多数

【紙面掲載】

グラフィック社 デザインのひきだし34
グラフィック社 デザインのひきだし36
グラフィック社 文具&紙もののグッズのつくり方

書籍でも紹介
されました！

02. 透かし印刷事例 ①



透かし熨斗(のし)紙

お祝い事をはじめ、お歳暮やお年賀などの贈り物に添える熨斗紙。オリジナルの透かし模様を施すことで高級感がプラスされ、印象に残る熨斗紙になります。

贈り物をお渡しする際、最初に目に入る熨斗紙にオリジナルの透かしが入っていることで、訪問時に話が弾むことも多いとか。



透かし包装紙

物を包んだり巻いたりすることができる包装紙。透かし模様を施すことで、オリジナリティがあり喜ばれる包装紙をご制作いただけます。

包装紙として使用することはもちろん、カットして封筒にしたり、お渡しするものを包んだり。様々な場面でお使いいただけます。

03. 透かし印刷事例 ②



透かし便箋・一筆箋・レターヘッド

手紙やお礼状、ちょっとした添え状や季節の挨拶などに使用する、便箋や一筆箋。季節の柄やオリジナルの透かし模様を施すことで高級感がプラスされ、印象に残るレターとなります。

会社のロゴなどを便箋のレターヘッドとして入れることで、社用便箋としてご使用いただくこともできます。



透かし封筒

手紙や書類などの紙ものから、ちょっとした厚みのない物まで、様々な用途にご使用いただける封筒。

オリジナルの透かし模様を施すことで、中の色を生かした表現ができます。前もって入れる物の色と合わせた設計をすると、効果的に透かし模様が映えます。

※封筒製袋工程の関係で、透かしが入れられる面積に制限がでる場合があります

04. 適正用紙のご案内

弊社の透かし印刷は、現在までに様々な用紙で実績を積み重ねてきました。

その中で弊社がお勧めする「**透かし印刷に適した用紙**」はこちらです。

- **上質紙（しろおい上質） 55 kg**

上質紙（特にしろおい）は透かし印刷に高い適性があります。上品な白色はどんな商材にも合います。

- **ソフトカラー 薄口 54 kg**

風合いのある用紙で、特に熨斗（のし）紙などにおすすめしています。薄い色が入った用紙もあります。

- **純白ロール紙（はまゆう） 56 kg・43 kg**

透けやすさでは一番。片面に艶感がある用紙です。特に包装紙などにおすすめしています。

- **色上質紙 特薄口 45kg**

色付きの紙をご希望なら、色上質紙がおすすめ。特に薄色のものは綺麗な透け感が出ます。

上記の紙でも、90kg以上の連量（斤量）ではあまり透け感が出ません。

どんな銘柄でも、厚い紙より**薄い紙の方が透ける傾向**にあります。

※基本的には非塗工紙をおすすめしています。詳しくはご相談ください。



05. データの作成方法

① 透かし版のデータは1色で作成します (ニス版と同様)。

② 透かしインキの上に、通常のインキは重ねられません。

透かしインキには通常のプロセスインキを重ねる適正がないため、通常の印刷部分は透かし部分を避けるか、その部分の透かし版をヌキにして作成する必要があります。

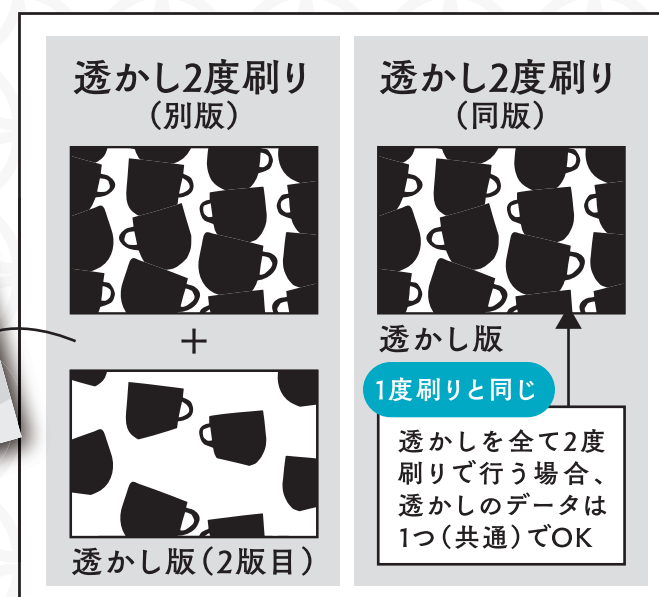
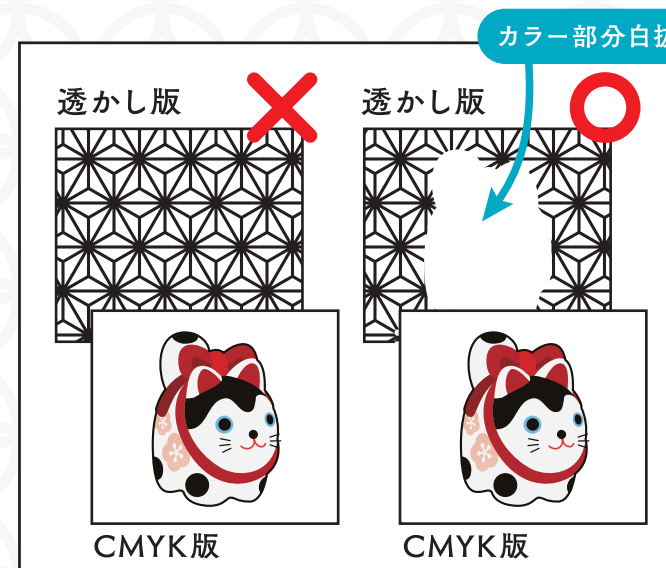
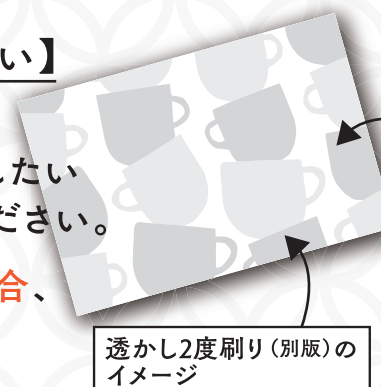
透かしを紙の裏面から刷るなどの奥の手もありますが、デザインを見て印刷現場が判断しますので、担当営業までご相談ください。

③ 透かし印刷は基本的に2度刷りですが、1度刷りにするか2度刷りにするかを選択することが出来ます。

※1度刷り/2度刷りの使い分けで 透け感に強弱をつけることができます

【透かし版は下記のように作成してご入稿ください】

- 1度刷り部分と2度刷り部分を分けた場合、透かし版のデータを2つ作成します。2度刷りにしたい部分は同じ箇所に同じオブジェクトを配置してください。
- 全部1度刷り、または全部2度刷りで統一する場合、透かし版のデータは1つで大丈夫です。



●事前にも本機校正を行います ※

透かし印刷は、用紙や絵柄によって透け感が変わってくる場合があります。
イメージ通りの透け感になるかをご確認いただくために、ご使用頂く用紙で
本番前の「本機校正」を行います。

透かし印刷では、
基本的に本番前の
本機校正は必須です

ご検討中の用紙を含めた数種類の用紙をお試しいただいたり、1度刷りと2度刷りなど数パターンの絵柄
をお試しいただくことなども可能です。※お見積り時には、本番印刷の費用と一緒に本機校正の費用も提示いたします。

●透け感の確認は3日程度おく必要があります

透かしインキは、時間の経過に伴いインキが用紙の繊維に入り込み透け感が出てくるので、印刷した直後
は透け感が殆ど確認できません。**透け感を確認するには、約3日間ほど置いておく必要があります。**
印刷後に断裁やその他の加工をする際には、約3日間の乾燥時間を置いた後に行いますので、通常の印刷
よりも納期を長めに見ていただくと安心です。

●透かしの印刷面には筆記特性がありません

透かしインキを印刷した箇所は、ペン、インクなどによる筆記特性はありません。
後で文字を書いたり押印する場合は、**その箇所の透かし印刷をデータで逃がす必要**があります。
※筆記特性はありませんが、透かしを裏から印刷することで若干緩和できる場合があります。まずはご相談ください。

07. その他注意点 / お問い合わせ

- 透け感の感じ方には個人差がございます。本機校正前に一度サンプルをご確認ください。
- 透かしインキは固化乾燥しないので、基本的に後工程の印字・後加工・箔押しなどができません。
本機校正段階でお試しいただくことは可能ですが、検証の上判断する必要があります。
- 透かしインキの上に通常のカラーインキは綺麗に乗らないため、カラー印刷部分は透かしを避ける必要があります。
- 透かしの絵柄が細かいものは表現しきれない場合があります。
- 透け感の程度は用紙によって異なります。
- 通常のオフセットインキにも使用している植物油(乾性油)を含みます。この成分は徐々に黄変します。またインキ膜厚が厚いほど、印刷後の経過時間が長いほど、保管場所の温度が高いほど、変色の程度が大きくなります。
- 透かしインキは固化乾燥しないので、年月の経過とともに、にじみが発生・進行します。
- 透かし印刷に他の印刷物を重ねて保管した場合、時間の経過や荷重のかかり具合によって、透かしインキが他の印刷物の絵柄に影響を及ぼす可能性があります。
- 乾燥は最低3日間必要とし、その後加工を行います。
絵柄によってはさらに乾燥時間を必要とする場合があります。
- 全面に透かしを入れるなど、透かしの面積が大きい場合は前もってご相談ください。

●透かし印刷については下記までお気軽にご相談ください。

お問い合わせ：株式会社藤和(営業所)

東京都新宿区天神町6番地 Mビル2F

TEL:03-5228-2351 WEB:<https://towaprint.com/>

WEBサイトの
フォームより
お問い合わせ
ください。

